

2020年度 JEAS 第16回技術交流会 展示発表

タイトル、発表者、所属	技術紹介の要旨（展示内容）
<p>「遠州灘沿岸域の堤防整備に伴う猛禽類への配慮について」</p> <p>発表者（代表者） 近藤多美子 （株）環境アセスメントセンター</p> <p>発表者（共同研究・共同発表） 酒井孝明、出縄二郎 （株）環境アセスメントセンター</p>	<p>静岡県浜松市内の沿岸域では、オオタカの繁殖が確認されている。沿岸域の堤防整備（静岡県）にあたり、オオタカの繁殖に対する直接的な影響が発生する可能性が予測され、繁殖に配慮した工事の実施という課題に直面した。</p> <p>整備実施中の2017年9月に本種は国内希少野生動物種から削除されたものの、静岡県による環境保全の方針は継続された。発表者等は、静岡県が開催する自然環境検討委員会にむけて、大きく3つの観点からオオタカの繁殖への配慮事項を提案した。</p> <p>(1)繁殖に必要な営巣林の確保、(2)オオタカの工事への馴化、(3)営巣林となっている海岸林の林縁保護である。</p> <p>5年に及ぶ工事では、上記配慮の具体案として、営巣林の伐採計画の最小化、非繁殖期からの工事着手、仮置土砂・目隠しシートの設置を実施した。この間オオタカの繁殖は継続して成功し、一定の影響軽減策として効果があったものと推測する。</p> <p>今回は、配慮事項と繁殖状況について発表する。</p>

遠州灘沿岸域の堤防整備に伴う猛禽類への配慮について

近藤多美子¹・酒井孝明¹・出縄二郎¹

¹(株)環境アセスメントセンター



◆背景・経緯

- 静岡県浜松市内の沿岸域では、オオタカの繁殖が確認されている。東日本大震災後、津波対策の一環として、堤防整備（静岡県）の計画が持ち上がった。
- 堤防整備にあたり実施した静岡県の自主的環境調査において、オオタカの生息地が確認された。繁殖への直接的な影響が発生する可能性が予測されたことから、繁殖に配慮した工事の実施という課題に直面した。
- この課題について静岡県が開催する自然環境検討委員会より助言を得ながら、オオタカの繁殖への配慮事項を検討した。
- それらの環境保全措置を実施した結果、営巣地周辺での工事実施下においても、オオタカの繁殖が継続して成功したことから、一定の影響軽減策として効果があったものと推測する。

◆事業の計画・環境保全措置等の概要

事業計画（影響予測）	環境保全の方針	環境保全措置	モニタリング手法
①堤防用地の伐採・試験施工（海岸林幅50m） ②プラント用地の伐採（営巣林含む海岸林幅50m） プラント建設・稼働 本体工事（土砂掘削・搬出入） →オオタカの営巣地縮小・消失、 工事に伴う重機・人の往来による忌避、繁殖への影響	(1) 繁殖に必要な営巣林の確保	・非繁殖期に伐採 ・営巣木伐採の回避 ・営巣林の伐採計画の最小化	定点観察 （行動圏確認） 林内踏査、鳴き声の定期的集録 （繁殖状況確認）
	(2) 営巣林となっている海岸林の林縁保護	・仮置土砂・目隠しシートの設置150m	
	(3) オオタカの工事への馴化	・非繁殖期からの工事着手、営巣地より遠方から着手 ・工事車両は制限速度20km/h以下で走行 ・営巣地周辺のプラントは刺激色を避け、目立たない色で塗装	

◆環境保全措置等の結果

- 事業中の2017年9月に本種は国内希少野生動植物種から削除されたものの、静岡県による環境保全の方針は継続・実施された。
- オオタカの営巣状況を踏まえ、工事計画及び環境保全措置の見直しを実施した。目隠し用の盛土、シートの設置及び営巣林の保全等を主な環境保全措置として実施した結果、オオタカの繁殖が継続して成功した。



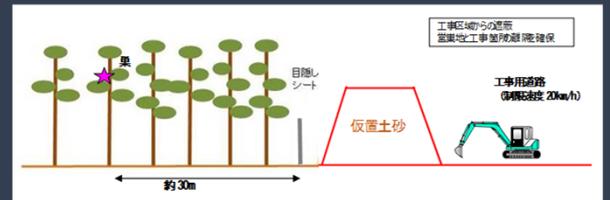
仮置土砂



目隠しシート



目立たない色で塗装したプラント



仮置土砂、目隠しシートによる目隠しの例

年（区分）	工事の概要	環境保全措置	繁殖等の経緯
平成25年	繁殖期	-	繁殖成功(巣1)
	非繁殖期	堤防用地伐採、試験施工	営巣木マツ枯れ
平成26年	繁殖期	営巣地より遠方から着手	繁殖失敗(巣2：造巣)
	非繁殖期	営巣林の一部伐採（以後も小規模伐採あり）	
平成27年	繁殖期	土砂搬出入	繁殖成功(巣2)
	非繁殖期	↓	↓
平成28年	繁殖期	↓	繁殖成功(巣2)
	非繁殖期	↓	営巣木マツ枯れ
平成29年	繁殖期	↓	繁殖成功(巣3)
	非繁殖期	プラント稼働	↓
平成30年	繁殖期	↓	繁殖成功(巣3)
	非繁殖期	直近の本体施工	↓
平成31年	繁殖期	↓	繁殖成功(巣3)
	非繁殖期	↓（工事終了）	↓